

学校評議員会の実施報告書

ホームページへの掲載	
済・未	2月6日掲載予定

岐阜県立関特別支援学校

校長 佐藤 秀樹

学校住所 関市桐ヶ丘一丁目2番地

電話 (0575) 22-4238

- 1 会議の名称 岐阜県立関特別支援学校 学校評議員会
- 2 会議の構成 【 学校評議員 】
- | | |
|--------|-----------------------------------|
| 澤井 基光 | 関市社会福祉協議会会長 |
| 沼田 明仁 | 四季ノ台自治会長 |
| 岡田 泰子 | 中部学院大学短期大学部准教授 |
| 大野 美奈子 | 社会福祉法人平成会レインボーハートフルサービス管理責任者 |
| 中島 貴弘 | Man to Man Animo 株式会社プロジェクトマネージャー |

【学校関係者評価委員】

後藤 香 PTA会長

【 学校職員 】

佐藤 秀樹	校長	堀 英男	中学部主事
福富 茂美	教頭	上浦 清彦	高等部主事
熊崎 律弥	小学部主事	井原 誠	教務主任

(今回欠席)

小森 正尚 事務部長

- 3 会議の目的 学校運営について地域住民や学識経験者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた活力ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 平成30年1月29日(月) 10:00~12:30
岐阜県立関特別支援学校 小会議室
会の内容(主な議題等)
- (1) 校長挨拶
 - (2) 平成29年度1年間の報告等について
 - (3) 卒業生の進路について
 - (4) 平成29年度の総括と反省(学校評価)について
 - (5) その他
 - (6) 学校給食試食会(ランチルームにて)

5 会議の概要

(1) 校長挨拶

本年度の自己評価の資料を用意させていただきました。皆様のご意見をいただき、来年度の学校経営に生かしていきたいと思っております。

(2) 平成29年度1年間の報告等について

小学部、中学部、高等部、寄宿舎の取組の成果と課題

質問1 (中学部の説明に対して) 組と学級の違いは何か?

学 校 中学部では、組は教育課程別に分けている。1組は教育課程A B (準ずる又は下学年適用)、2組は教育課程C 1 (知的代替)、3組は教育課程C 2 (知的代替)、4組は教育課程D (自立活動中心) である。それぞれの組の中で、学年別で学級に分けているところもある。

質問2 教育目標、方針、指導の重点など学部によって表記が違っていたが、どう整理しているのか。

学 校 学校の教育目標があり、各部はそれを受けて、児童生徒の実態に応じた目標(方針)を設定している。さらに、3つの重点を設けている。方針は、各部ごとにつくっているものであり、目標と同義である。

(3) 卒業生の進路について

(4) 平成29年度の総括と反省(学校評価)について

I 自己評価

○学習活動・家庭や地域等との連携

<課題>

- ・病弱の児童生徒への対応
- ・ICT活用の汎化

○安心・安全な学校生活

<課題>

- ・緊急時対応マニュアルの見直し、訓練の改善
- ・ヒヤリハット・アクシデントの迅速な報告と周知徹底

○キャリア教育

<課題>

- ・病弱教育の関係機関との連携
- ・卒業生への追支援

意見1 ICTの活用については、個人的な知識・技能の差があると思う。ICTの研修会を行い、知識の共有化ができるとよい。やり方が分かってくると面白くなってくる。

学 校 本年度から学習支援部に情報係を位置付けた。各部に担当者を置き、自主研修会も行っている。保護者に対しても、夏季休業中に研修会を行っている。しかし、常時行うことは難しい。

意見2 高等部が外部との交流を活発に行っているのはすばらしい。しかし、まだやれる余地があるのではないかと。自治会としてもお手伝いしたい気持ちはある。具体的なネタを提供していただければ、みんなに話ができる。せっかくなので地域を活用してほしい。定年退職した人たちは、日常の中で文化的な、有意義な生活がしたいと思っている。何か一緒にできるとよい。

地域に折り紙の先生がいる。全国のコンクールで優勝された方で、近隣の学校で教えたり、生涯学習講座で講師をされたりしている。もし、要望があればお願いできる。

質問1 体育館を開放しているというがどこが利用しているか。

学 校 関商工の部活動、障がい者バレーボール、車いすバスケットボール等が活用している。地域の研修会の会場として貸し出すこともある。

意見3 小学部の児童と幼児教育学科の2年生の学生が交流を行っている。障害児支援コースの学生がセミナーで実践を発表したが、学生にとってよい学びとなっている。(教育の現場では)保護者の日々の思いを受け止めていく支援が大きいと思う。学生だけでは考えきれないので、みん

なで考えていければよいと思う。また、特別支援学校では小学部から高等部まであり、長い生徒には12年間、育ちを見守る支援ができる。(同じ学校内に)知っている先生がいるということは子どもたちの心の安定になっている。今後、複数の教育課程を合わせてグループをつくるような時でも、子どもにとっての環境の安定を図ることが大切だと思う。

意見4 普段知ることができないことを詳しく知ることができた。ヒヤリハット・アクシデント事例については内容に興味があるし、自分たちの職場においても参考にしたい。ICTの活用等も含めて情報発信していただけるとよい。

質問2 近隣の高等学校と長年交流を続けていること、共同学習で対等に交流をしていることはすごい。FC岐阜の交流にも興味がある。経緯を教えてください。

学 校 宿泊学習でスポーツプラザに泊まった時に、事務局で交流する約束をした。

意見5 作業製品を試合会場で販売し、その際、作品を作っている様子をパネルにして広報活動をするのも面白いと思う。

意見6 病弱の支援の難しさを経験している。とてもたいへんだと思う。(対応についての)情報を蓄積して、職員間で共有してもらえると有難い。

質問3 職員の重労働に対して、学校としてどう対応しているか。このような仕事をしていると職員は一生懸命になって仕事に入り込んでしまう。思いが強くなって入り込んでしまうと自分からは出られなくなる。

学 校 働き方改革ということで、当校でも「8」のつく日や年間10日のノー残業デーは18時に施錠している。また、通常でも夜10時を越えないようにしている。

意見7 卒業生の追支援を3年と言われたが、3年だけでなく、ずっと見てほしい。卒業生にとってここが母校であり、何かあったらいつでも来てもらえるようにしてほしい。

意見8 子どもが高等部2年だが、高等部3年になると就職のことが気になる。自分は何が合っているのか、息子にはまだ自覚がない。母親としても子どもの視点になって考えようとするが、学校と家での姿は別である。あと1年しかないと焦る。

意見9 企業の求人ニーズが劇的に変わっている。法定雇用率が2.2%に引き上げられたり、ペナルティの強化等が背景にある。まずは、企業を見学したり、実習をしたりしていただくことが大切である。

意見10 息子は知的と身体のグレーゾーンに入っている。手先の不器用さがあるために、A型、B型の作業はできないし、パソコンもできない。どんどん選択肢が狭くなっている。実習をしてこれならできるという自信がもてればよいが。

意見11 始めは学校からの実習という形で、まずはやってみるのがいい。どうしても行動範囲は限られてくる。そういうことを加味していろいろな相談機関を活用してみるのもいい。

6 会議のまとめ(校長より)

本日は貴重なご意見をいただきありがとうございました。新しい学習指導要領の理念に「社会に開かれた教育課程」ということがある。岐阜市はすべてコミュニティスクールになっているが、地域からの参画が重要になる。「できることがあれば」と言っていたことは本当に有難い。これからは授業にも参加していただくことが必要になってくる。進路については企業、福祉の方に参画してもらい学校づくりをしていくことが求められる。本日の学校評議員で得られたことを学校経営に生かしていきたい。なお、アンケート結果は、その時点のことである。(子どもの状況は)いつも動いているので、常に今ある子どもの様子に対応していくことが大切だと思っている。